

第4回富山市文化財保存活用地域計画策定協議会 会議録

開催年月日	令和7年3月11日（火）
開催場所	Toyama Sakuraビル6階 研修室
会議時間	開会 午後2時00分 閉会 午後3時40分
出席委員 (9名)	上野委員（議長）、菊川委員、齊藤委員、島添委員、鈴木委員、関野委員、辻委員 （代理出席：富山県教育委員会生涯学習・文化財室 越前副主幹）、中村委員、 藪谷委員
欠席委員 (1名)	今川委員
事務局	教育委員会：民俗民芸村村長、生涯学習課長、埋蔵文化財センター所長、 その他5名 ※令和6年度富山市文化財保存活用地域計画策定支援業務委託受託業者として ランドブレイン株式会社社員 2名
会次第	1 開会 2 議長挨拶 3 報告事項 （1）スケジュールについて （2）ワークショップの実施について 4 協議事項 （1）富山市文化財保存活用地域計画骨子案について ① 構成の確認 ② 将来像について（第5章関連） ③ 文化財の保存・活用に関する課題・方針について（第6～8章関連） （2）歴史文化の特性について（第3章関連） （3）計画素案（序章・第1章）について （4）文化財の概要及び既往の把握調査について（第2・4章関連） 5 連絡事項 6 閉会

—会議録（概要）—

1. 議長挨拶

議長

本日は3月11日で、14年前に大地震が発生している。去年は能登地震があり、そういった災害時には文化財も様々な形で影響、災害を受ける。富山市においても本計画の中で、災害に対する対策なども審議していくことになる。災害があっても誇りとなる文化財は守っていききたいものだと思っている。
本日も委員の忌憚のないご意見、ご質問をお願いしたい。

2. 報告事項

事務局

～資料1 富山市文化財保存活用地域計画策定事業スケジュール、資料2 富山市文化財保存活用地域計画策定事業 ワークショップ実施報告について説明～

（質問、意見特になし）

3. 協議事項

(1) 富山市文化財保存活用地域計画骨子案について

事務局 ～資料3 富山市文化財保存活用地域計画構成、資料4 将来像について（第5章関連）、資料5 文化財の保存・活用に関する課題・方針（案）（第6～8章関連）について説明～

議長 ご意見、ご質問はあるか。

委員 6～8章と10章の内容は重複することはないか。

事務局 6～8章の措置については今後の取組みについて記載する部分で、10章の推進体制は、現状どういった団体があり、どのような構成かを記載する。例えば、文化財担当部局は教育委員会生涯学習課の文化財係であることや、博物館の体制などについてである。他部局であれば、観光政策課や商工労働部といった部局との協力体制を記載する。

 全体的に内容が重複しやすいため、調整しながら記載していく。

議長 今は観光ガイドやボランティアの方々も文化財の啓蒙に一役かっている。そのような団体や曳山保存会、獅子舞保存会といった保存会など各種団体も関わってくる。文化財を維持していく上で、修理をどこに頼んだらいいかなど、体制も書き込めるとよい。

 文化財の保存管理に関して、日常管理でどのようなことに気を付けていけばよいか、個人の場合はよりわからない。文化庁や富山県からすべての文化財を網羅しているものがあるが、建物、古文書などその対象となる個々の文化財のための管理マニュアルがあれば、より一層管理できるようになるのではないか。きめ細かな管理は、市長村単位で考えていけるとよい。

 また、年1回でも定期的なパトロールとして、管理状況がどうか、所在地不明がないように、地域の方々に参画してもらうなど、確認が取れる体制があればよい。参画してもらうことも大事で、地域の誇りになる。

 史跡など知らないうちに開発行為があり得る。

委員 今回、方向性や将来像を組み立てていくプロセスに関して、作り方を確認したい。一方方向ではないものだが、方針を決めてから方向性を作るボトムアップでつくったのか、将来像を決めてから細分化していく方法だったか。

事務局 まずはボトムアップで作成し始めた。現在教育委員会で実施している取組みや他部局の事業を踏まえて、文化財に関する取組を整理し、分類分けしていった。新規の措置も念頭においているが、まずは今実施しているものから方針や課題を分けていった。課題については、市の計画や先生方の意見を踏まえて、作成している。

委員 プロセスは理解できる。将来像を考えるにあたり、将来像だけ考えても言葉遊びになり、なかなか決められないと思う。今回の措置として、富山市で目玉にな

るものはあるか。新しくチャレンジする部分が目玉なのかと想像しながら聞いていた。

事務局 現在、教育委員会で実施している取組みで一番大きなものは、岩瀬地区の歴史的建造物の活用になる。史跡も活用、整備をやっているが、本来それだけが文化財ではないため、全体としてどうしていくかと考えるのが本計画になる。さらにメインになるものは、今はまだ出ていない。

元々、現在、各施設や各課、各部局の各々で実施しているものを、一度全て抽出して、見える化することが大事だと考えており、何か新しいものを1つ出すより、各々で行っている活動を整理して、何かつなげていくことができないかと考えている。

委員 現状を一度整理することは必要だと思う。今回は整理までを目指しているのか、新しい概念を入れて、新しい動きを作ることを目指しているのか。

事務局 まずは、富山市としてどのような歴史文化の特性があるのかを、今まで示すことができていなかったため、富山市らしさを歴史的に見るとどういったことが言えるのかを歴史文化の特性や関連文化財群の設定で示すことを考えている。

現状は新しい事業を示せないが、富山らしい歴史文化を本計画で見せることができればよいと考えている。

委員 保存活用と体制の枠組みを整理するだけでなく、歴史的な文脈に基づいて、事業を関連付けていくことを考えると、「つなぐ・つながる」というキーワードは理解できた。将来像案4つ目は、富山の歴史文化を作りましょうという感じに捉えられるため、しっくりこない。「富山らしさ」などのあたりがしっくりくる。

議長 歴史的背景の構成の中で、他の市町村でも旧石器時代から始まっている。富山市はそれ以前の天然記念物など多くある。地質、断層など国指定、県指定の天然記念物、大山町の恐竜足跡化石などもある。人類がいない以前の時代で文化財になっているものがある。

自分が住んでいるところは、人がいないときはどうだったのか興味をそそる。子どもたちに文化財に関心を持たせるきっかけにもなる。

事務局 歴史的背景で、旧石器時代以前の項目を設けて特徴を記載するか、2章の文化財の説明部分で記載するかどこかで触れるようにしたい。

委員 3,4年かけて作成する計画のため、目玉の事業がなくてはいけないと考える。課題には「文化財の保存管理の支援が必要である」とあるが、今後考えられる措置には、維持管理にかかる費用の一部を負担するといった金銭面の支援も考えられているのか。

事務局 現状は、すでに指定文化財の補助に対する決まりがある。未指定文化財でも民間団体や国などから金銭的な支援がある。そのような情報がいきわたっていない

のではないかと感じており、情報発信について課題があると考えている。支援の枠組みを拡大できるのかどうかは、すぐにお答えできないが、そういった声があがっているか。

委員

例えば、おわら風の盆などイベント的なものの支援はしていると思う。市が保有していない施設などについて、きちんと整理した上で、支援できていないものに対してどうするのか。計画だけ立てて、現状整理だけでは進まないと思うため、具体的に計画の中で実施していく支援が大きな柱となりうと思う。

行政でやることもあるが、民間の資金も集められるとよい。例えば、文化事業基金や観光振興基金などもある。新たな基金を作ることは難しいと思うため、既存の基金の中で、民間の力も入れながら考えていくことも期待できる。

文化は様々なセクションが絡んでいるものであるため、教育委員会が筆頭になるのは推進が弱い。市全体の事業に関わるものであるため、企画調整課を入れると、他の部局の動きが違ってくる。計画を作っただけで終わりではなく、しっかり意気込みをもって本計画を作り上げて事業を進めていく必要がある。

議長

文化庁予算だけでなく、クラウドファンディングなども取り入れていくこともできる。また、岩瀬の街並みなどは、文科省ではなく国交省で補助を受けて再生している。他の省庁でも街並みの保存といった文化、伝統継承に関しても支援がある。コロナ禍には、祭りなど補助が出ていた。少子高齢化で完全に消滅してしまう地域も出てくる可能性が十分に考えられる。未指定の文化財も継承できるように考えていく必要がある。

委員

富山県は教育委員会が文化財を扱っているが、全国的に見ると知事部局に移っている県も増えてきた。実際、知事部局の方が予算がつきやすいことや観光や土木とも連携しやすいという理由で知事部局になっているところもある。教育委員会で文化財は守って行くというところもあり、それぞれの県の事情や方向性によると思う。

本計画は初めて作る計画であり、見直し時に結局何もできなかつたら意味がない。第2期、第3期と続いていく際に、ステージをあげていくことを考え、初めての計画は、あまり大風呂敷を広げずにやっていく方が賢明ではないかと考える。

今までは、文化財の保存修理、活用など補助金が出ているか出ていないか、外からは見えないものだった。本計画で、次はどこの修理をする、お金を使うといったことが短期的、中期的に見えてくる。要は見える化することを目的として、まずはきっちり書き込んでいくことが大事だと考える。

(2) 歴史文化の特性について

事務局

～資料6 歴史的事象等のつながり、資料7 歴史文化の特性について説明～

議長

ご意見、ご質問あるか。

委員

歴史文化の特性案の「海拔 0m から 2,986mの営み」について、補足説明をお願い

したい。

事務局 富山市は海から山まであり、地形的な特徴がある。その中で海の近くの地域、山の地域の暮らしがあり、地形に合わせて多様な営みが行われてきた。人が生まれる以前の文化財もあるが、人が生まれた以降の地形に合わせた営みがあるということで、設定した。非常に幅広いテーマになっているため、漁業や農業も含む形であるため、整理が必要になる可能性はあると考えている。

委員 富山ならではの地形に合わせた暮らし、文化が生まれてきたことは理解できる。他の歴史文化の特性はストーリー仕立てしやすいが、この「海拔 0m から 2,986m の営み」は、ストーリーにしにくいいため、別の考え方や分け方で検討が必要な気がする。将来像と関係させて言うと、例えば山、海、里の暮らしがそれぞれ繋がっていることがわかるとより面白い。

事務局 産業、生業、地域の信仰や災害は地域をこえて繋がっているものである。こうしたことを歴史文化の特性で示したり、関連文化財群で設けることもできる。
くすりのまち富山であれば、売薬と八尾の和紙などいろんなものが繋がっていることは言いやすかった。いろいろなパターンの繋ぎ方があるものであるため、歴史文化の特性で決まったものを出すよりは、関連文化財群のストーリーとして考えるのも 1 つの手と考える。

委員 関連文化財群は、歴史文化の特性を横断しながら作ることもできるのか。

事務局 歴史文化の特性ごとにも、横断しても作れる。歴史文化の特性ごとに関連文化財群を一つずつ作ることは一番つくりやすいが、必ずしも特性で分けられるものではないことも他の自治体の計画で見ているとわかる。

委員 歴史文化の特性は、キーワードを見ると富山市のイメージがわくことが大切だと思う。5つの特性はイメージしやすい。「海拔 0m から 2,986m の営み」はいろいろ入っているが、富山市を象徴する数字のため、自然に特化したもの、史跡までまとめてはどうか。

山里海の生業と信仰は「海と陸の交流」にもっていくと、すっきりするのではないか。

(3) 計画素案について

事務局 ～資料 8 計画素案（序章・第 1 章）について説明～

（質問、意見特になし）

(4) 文化財の概要及び既往の把握調査について

事務局 ～資料 9 指定文化財の概要、資料 10 未指定文化財の件数、資料 11 既往の把握調査等について説明～

議長	ご意見、ご質問あるか。
委員	前回の未指定文化財の件数資料に対して、今回、民俗文化財の石造物の件数が増えている理由を教えてください。
事務局	未指定文化財は既往の把握調査に記載がされている調査報告書を見て、リスト化している。膨大な数であるため、全部見きれていない状態である。その石造物の資料から抽出したことで、件数が増えている。
委員	より正確な値に近づいているということであれば、問題ない。

以上